

# 三心を磨く

学校だより No. 7

令和6年11月18日(月)発行

須坂市立東中学校

文責：(教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

## 後期人権教育月間 校長先生のお話 よい

後期人権教育月間が始まりました。今日は、この上高井に伝わるお話を聴いてください。

同和問題、部落差別

### 「袋の中の免許証」

「お前に俺の気持ちがわかってたまるか！」

Aさんの怒鳴り声が響いた。Aさんが怒るのには理由がありました。Aさんは昭和13年に被差別部落に生まれましたが、小学校入学をむかえても生活苦で学校に行かれませんでした。だからAさんは文字を勉強することができなかったのです。

Aさんは建設関係の仕事に就きましたが、車を使って遠くの仕事に行くことができません。Aさんは文字を知りませんから、運転免許をとるための勉強ができなかったのです。仕方なく遠距離の仕事は同僚に「車に乗せていってくれ」と頼むのです。しかし、約束しても迎えが来ないときもありました。普通に働いていても家族を養うのに十分とはいえない状態でしたので、一回仕事を休めばその分収入が減り、生活が苦しくなります。Aさんにとっては、ただ約束を守ってもらえなかったという問題では済まされないのです。そんな時、迎えに来なかった仲間より、免許がない文字を知らない自分にAさんは腹が立ちました。そんなイライラが溜まる中で、妻に話しかけられたり助言されたりすると、Aさんはついつい大きな声を出してしまうのです。そんなAさんを一番嫌に思っていたのは、実はAさん自身だったのです。そして、そのことを一番よく分かっていたのは妻でした。

「Aさんが免許を取ったら、Aさんが文字を知っていたら、Aさんが変わるのに。」「Aさんに免許を取らせよう。」Aさんが文字を勉強する場をつくろうと、同じ被差別部落の人々が行政に要請して、昭和51年に識字学級をつくりました。Aさんだけではなく、被差別部落の人々が、お互い差別に負けない学力をつける場でもありました。

初めての識字学級です。Aさんの前には、ひらがなの練習本がおかれまして。しばらく本に書かれているひらがなをじっと見つめていたAさんは、ゆっくり鉛筆を握ると、一文字一文字鉛筆が折れるかと思うくらいの力を込めて、文字の形を書きました。12月だというのに、たちまちAさんは汗びしょりになり、シャツ一枚で文字を書きました。Aさんは欠かさず識字学級に通いました。しかし、文字を覚えるのは簡単ではありません。

しかも、Aさんの場合は文字を覚えるというだけではなく、免許を取得するという目標もあります。ひらがな、漢字、車の構造と覚えることは山ほどありました。Aさんも必至に勉強をし、2年後ようやく免許取得の為に自動車教習所に通うことになりました。

教習所の教本には、Aさんの知らない漢字がたくさんあります。その漢字に妻が丁寧に一つ一つ仮名をふりました。人が1時間で読み終える内容も、Aさんは3時間も4時間もかかります。Aさん

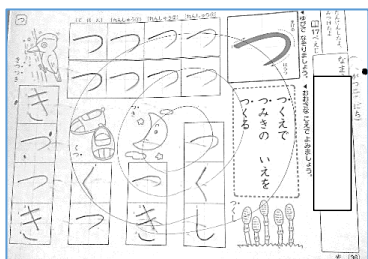


は、寝る間も惜しんで勉強をしました。しかし、試験にはなかなか受かりません。試験を受ける、落ちる、受ける、落ちる…。幾度となくそんなことが続き13回目の試験でAさんは念願の運転免許証を手に入れました。文字を覚える学習をはじめから、5年の歳月が経っていました。教習所の先生から手渡された免許証を両手で受け取ったAさんは、それをそっと袋の中に入れ、かばんの中にしまいました。

こんなお話が、伝わっているんです。識字学級って言って、夜仕事を終えてからこうやって集まってきてひらがなから始まり、初めて文章を習う場所がありました。今でいう、夜間中学のようなそんな場所です。



これが、38歳のAさんが初めて書いたワークシート。「つくし」とか「つき」とか、小学校一年生が使うプリントを38歳の時、初めて勉強し始めたんです。鉛筆の使い方を習うのも38歳で始めました。文字が書けない文字が読めない、



ということかということ、文字を奪われた、そういう生活をしてきたわけですね。奪われたのは単に文字だけではないんですよね。文字を知っていれば身につくはずの知識や経験、そういったさまざまなものを同時に奪われた。それがAさんであり、被差別部落の方々でした。識字学級は文字を奪い返す学習の場でもありました。そして、人間としての誇りと自信を取り戻すための場所でありました。Aさんは、差別で文字を奪われました。文字が書けなければ当然学力もつきません。そうすると仕事も限られてきます。

**文字が書けない  
文字が読めない**

- ・文字を奪われた
- ・奪われたものは単に文字だけではない
- ・文字を知っていれば身につくはずの知識や経験、そういった様々なものを同時に奪われてきた。

文字を奪い返す営みを通じて、それら的一切を奪い返していく

**人間としての誇りと自信を取り戻していく**

三年生の皆さんは勉強しましたかね。結婚するときにも差別がたくさんありました。仕事に就いても、安い賃金で働かなければいけません。多くの方の命も奪われ、自分で死を決意した方もたくさんいました。

**差別によって奪われた物**

- ・文字
- ・学力
- ・仕事
- ・結婚
- ・賃金
- ・他

その人らしさ  
明るさ  
やる気  
目標  
生きる力

いじめによって  
奪われた物

では、いじめによって奪われるものってなんでしょか？いじめられた方は、どんなことを奪われるでしょうか？…その子らしさとか、明るさとか、頑張るぞっていうやる気とか、人生の目標

とか生きる力、こういったことを奪われてしまうのがいじめであるかなと思います。

差別された方は、たくさんものを奪われてしまうんだけど、じゃあ逆に差別をした人、いじめをする人は何か得をするのでしょうか？何か得るものがあるのでしょうか？なんでこんなことしてしまったんだ、自分って何なんだろう？こんな自分が嫌だ。もう一回やり直したい…などと、きっとね、差別をした方も、たくさんものを奪われてしまう。差別やいじめは、被害者の側も加害者の側も、それぞれ失うことだけなんです。

免許をとって、自分らしさを取り直したAさん。本来の優しいAさんが戻ってきて、お世話になった方々に、こういったものを作って全員に配ったそうです。残念ながらAさんは、15年ほど前に亡くなってしまいましたが、妻のB子さんは今も健在で元気で働いています。



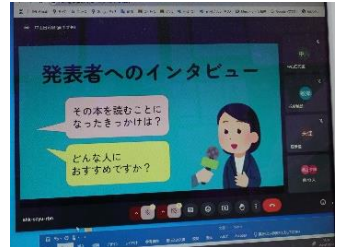
皆さんも、この人権教育月間の間に、たくさん人権の勉強をしてほしいと思います。

お礼につくったお守り



# ビブリアレビュー ～秋の読書旬間～

10月28日～11月8日は、秋の読書旬間でした。今回の旬間では、先生たちのおすすめ本やビブリアレビューが企画されました。ビブリアレビューは、各学年の発表者がおすすめ本のプレゼンをして、最後に全校生徒が「自分が一番読んでみたいと思った本を決める」という企画で、東中では、秋の読書旬間恒例の企画となっています。代表生徒による2分程の短いスピーチのなかには、推薦本の魅力や面白さがギュッとつまっており、運営側の図書学芸委員の質問が更に「押しポイント」を引き出してくれました。今年は、2年生の小穴さん推薦の『行動経済学』（阿部 誠監修）が、1位に選ばれました。旬間は終わりましたが、引き続き、秋の夜長に読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。



## 「地域食材の日」献立

学校給食では、「食育」を大事にしています。15日は地域食材がテーマで、須坂市の食材や長野県の郷土料理「虹ますの円揚げ」\*安曇野（明科）の郷土料理\*を取り入れた献立でした。「信州ご当地定食」としてお店



給食センターだより  
令和6年 11月 15日(金) 中学校・支援学校コース

今日の献立は 《地域食材の日》

ソルガムご飯 牛乳 村山早生ごぼうのスープ  
虹ますの円揚げ キャベツの野沢菜漬け和え

【今日の献立の食育の視点は・・・食品を選択する能力です。】

※週は、須坂市や長野県でとれり作られている「地域食材」をたっぷり使って給食を作っています。今日はその最終日ということで、さらにたくさんの「地域食材」を使っています。これまでの給食で何回か紹介しているものもありますよ。みなさんは、今日の給食を見て、どの食材が「地域食材」かわかりますか？

《クイズ》(ゆっくり読んでね)

今日の給食は、何種類の「地域食材」が使われているでしょうか？

① 3種類 ② 5種類 ③ 11種類

《答え》は、③の「11種類」です。須坂市産は、米、ソルガムの実、村山早生ごぼう、甘シヤキエのきです。長野県産は、牛乳、鶏肉、豆腐、小松菜、虹ますの円揚げ、キャベツ、野沢菜漬けです。「地域食材」を使った給食は、みなさんが長野県の農業や畜産業について知ることができたり、郷土料理を知って味わうことができます。目の前の給食にはたくさんの情報が詰まっています。それを、「給食センターだより」でみなさんに伝えていきます。

でメニュー化してもよいくらい、地域食材がふんだんに使われ栄養バランスもよく、とってもおいしい給食でした。健康な体をつくるためには、一日に30品目の食材をバランスよく摂取するとよいといわれていますが、給食では、15品目前後の食材が使われています。地産地消の取組も大事にしている給食を通して、身近な食材のおいしさを知ったり旬を感じたりして「食」の大切さを実感してほしいと思います。

\*先週は東中の畑で育てたサツマイモを給食の「秋のベジ多味噌汁」の具として調理していただきました。生徒たちが育てたサツマイモは、おいしさもひとしおで、味わっていただきました\*

## 連絡

### 情報モラル講演会 11月22日(金) 14:35～15:25

- ◇場所：東中体育館 ◇講師：子どもとメディア信州 松島恒志先生
- ◇内容：メディアとの適切な関わり方、SNS等によるトラブル、事件や犯罪の実例等
- ◇保護者の方もご参加いただけます。参加を希望される方は15日に配信した tetoru のURLよりお申込ください。

### 須坂市教育委員会発行「新しい学校づくりだより」について

市教育委員会では、子どもたちにとって、よりよい教育環境を整え、未来を見据えた学校を目指し、現在、新しい学校づくり基本方針（案）の作成を進めています。須坂市におけるこれまでの議論の経過や小中学校の現状、基本方針（案）検討の方向性などについて、保護者や市民に知っていただくため「新しい学校づくりだより」を作成しています。先週までに、NO.3まで発行されました。是非、目を通していただき、内容を周知していただければ幸いです。